

ミュージアムコラム

武庫川女子大学附属総合ミュージアムでは、所蔵する国の登録有形民俗文化財「武庫川女子大学近代衣生活資料」全 9,092 点から季節の主題に沿う資料を選び、一年を通じて学術研究交流館（IR 館）1 階ロビーにて展示をおこなっています。

2024 年度秋季企画

超和裁傳

- 100 年前の姿にもどす美技 -

2024 年 9 月 9 日（月）～ 12 月 6 日（金）

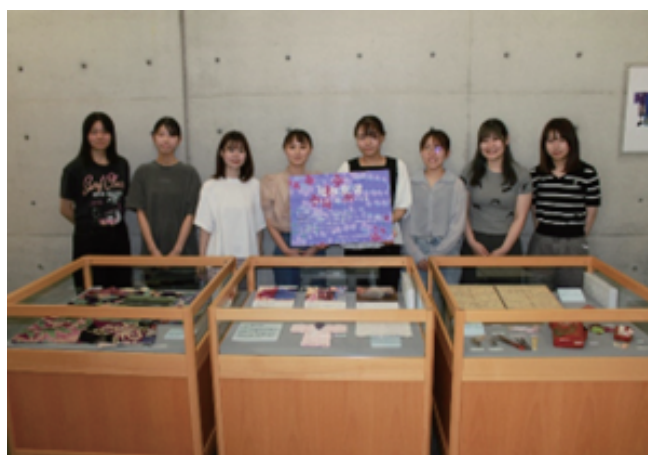
本展は、「博物館実習 B」を受講した学生がミュージアムでの実習で企画・実施したものです。

本学には、博物館などで資料を扱い調査展示などに携わる専門職「学芸員」の資格を修得するコース「博物館学芸員課程」があり、ミュージアムでは実習の指導をおこなっております。

繊維資料は保存が難しく、所蔵する和服や関連小物の中には破損やほつれなどの不具合が生じた資料がありますが、ミュージアムには和裁士の資格を持つ研究者らスタッフがおり、文化財資料の現状調査・記録とともに必要な修復をおこなっています。

本展では、当ミュージアムが所蔵する文化財の着物とそれを将来に継承する修復技術、和装が日常着であった時代の和裁道具を、実習生の視点を通して紹介しています。

「超和裁傳」展は、今年度の学芸員課程の受講学生 21 名のうち 8 名が、実際にミュージアム所蔵の文化財資料と設備を使って企画し、展示したものです。学芸員を目指す学生たちが若々しい感性で捉えた文化財の長襦袢、繊細な和裁の修復技術や、往時の裁縫道具を是非ご覧ください。



企画・展示をおこなった実習生



展示作業の様子



修復された長襦袢

明治 36 年生まれの女性の長襦袢です。昭和初期の華やかな色柄の染見本生地を繋いで仕立てたものと思われる。

蝶の柄の下あたり、後ろ身頃の右裾部分に破れがあり、裾裏地にほつれがありました。



修復工程と和裁の技

裾にあった破れと裏地のほつれを、表地の内側に同系色のあて布を当てて修復した工程の紹介です。修復後は破れの判別が困難となりました。

和裁の基本である運針、和裁士と受講生 8 名の縫目の対比をご覧ください。
(長襦袢雛形は個人蔵)



和装時代の和裁道具

日常着が和装であった時代の和裁道具です。くけ台、へら、袖丸み型、鯨尺の竹尺など、洋裁では見られないものが数々あります。

標(しるし)付けなどの作業をするへら台には、袴や羽織などの裁ち方が印刷されています。



次回の展示は 2025 年 1 月を予定しています。